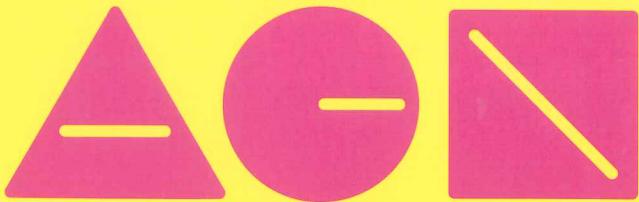


発行日 平成26年3月1日  
編集 愛知県立芸術大学広報委員会  
発行 愛知県立芸術大学事務部門学務部学務課  
愛知県長久手市岩作三ヶ峯1-114  
TEL 0561-76-2683 FAX 0561-62-0083  
Home Page <http://www.aichi-fam-u.ac.jp/>



Aichi Geidai News



音楽学部の新校舎が落成しました。  
今年度後期より利用が開始されています。  
Topics(6p)をご覧ください。

No. 61



## 愛知県立芸術大学学長

松村 公嗣 まつむら・こうじ

予想だにしなかった学長という重職に就き、1年が経とうとしています。何もかも母校のことは分かっていたつもりでしたが、ほんの一画面しか知らなかったことに、今更ながら打ちのめされております。特にこの数年間は激動で、グローバル化をめざし愛知芸大は国際的な広がりに向けて急速に変化しつつあります。大変素晴らしい事ではあります。しかしながら日本における長い歴史の中で、我々自身が文化芸術を理解し、国粹主義に偏らず、又国際的な迎合もせず、考えに自信を持って諦々と押し進めることも大切であります。文化のグローバル化は伝統文化に裏打ちされた日本の文化であるとの認識があつてこそ真の国際化と言えるのではないでしょうか。

めまぐるしく変化する愛知県立芸術大学も、もうすぐ創立50周年を迎えます。それにあたりもう一度この地域に根差す芸術大学を構築しなおす必要があると思います。

まず、文化財保存修復センター設立を目指してこれを実行したいと思っております。本学では日本画を中心に、開学以来、法隆寺金堂壁画模写等の古典絵画の研究が行われてきました。さらに、名古屋城本丸御殿の金壁をはじめとした障壁画の復元模写をはじめ、現在名古屋市博物館から三重県所蔵の作品の屏風作品の修理依頼を受けており、今後の受託研究の受け皿が必要になります。一方、同時に絵画作品全般の調査研究も必要であります。そのことによって次なる修復作業の一助となることは自明であります。

また、学内施設の整備も継続して行ってまいります。本校は恵まれた自然と共に棲む素晴らしい環境にあります。その環境下で、音楽・美術それぞれの分野で学生たちが日々新しい芸術表現に挑戦し、成長していくことを私は願っています。彼らの成長を支えるべく、今年度音楽学部の新校舎が竣工しました。そして、美術学部の校舎についても、建て替えを引き続き愛知県へ要望し、より良い環境づくりに努めてまいります。

最後に、これからはものづくり愛知において、例えばトヨタ自動車を代表とするハイテクを要する産業に密着連携して保存修復の分野がデザインの分野に生かせられないか、またそれらを研究する余地は十分あると思われます。このように地元企業等との交流を深めながら、地域・地元に応え繁栄しなくてはならないのです。

本学の学生をはじめ、地元地域ひいては世界中から愛される、存在感のある大学となれるよう、教職員一丸となって今後も様々な取組みを行ってまいります。



北田 克己 きただ・かつみ 日本画専攻教授

専任教員としては本学が3つ目の大学になります。いずれの大学でも日本画実技の指導を担当しました。

美術大学の自由な気風は共通ですが、雰囲気は少しずつ違います。特徴が際だっているほど面白く、活気が出るもので、着任から日が浅いので、これら学生諸君の可能性や教員の皆さんの研究活動との新鮮な出会いを楽しみにしているところです。

私自身もそうでしたが、日本画を志す人は素材の美しさに惹かれる場合が多いと思います。恬淡かつ清澄な世界からビビッドな色彩表現まで、自分なりに使いこなすことで新たな表現をつかみ取ることができることができる素材です。

今でも伝統的で原初的な材料が使われていることはひとつの奇跡のようにも思えます。それを継承してきた日本の古典美術とその源流であるアジア文化にいつも視点を据えています。



阪野 智啓 ばんの・ともひろ 日本画専攻講師

本学や京都造形芸術大学の非常勤講師などを経て、2013年4月より着任致しました。日本画創作では歴史画をテーマとして、併せて古典絵画の研究にも取り組んでいます。私は本学を修了後、幸運にも名古屋城障壁画の復元模写事業に携わることができました。名古屋城の障壁画は二条城に比べて知名度は低いですが、桃山時代の御殿の障壁画としては他に例を見ないほどよく遺されています。そのような貴重な資料に直接触れることができ、技法や絵画様式を学ぶことができました。日本画は千年以上の歴史の繋ぎりを直に感じることのできる希少な分野です。模写での経験を活かしてより一層創作や研究に励み、大学教育に反映できるように努める所存ですので、今後とも宜しくお願ひ致します。



高橋 信行 たかし・のぶゆき 油画専攻准教授

私は1991年に愛知県立芸術大学を卒業しました。学生時代は大して制作もせず、いつもギターを弾きながら学内をウロウロし、芸祭のステージにだけ情熱を燃やすという、あまり(というか全く)褒められた生徒ではありませんでした。それでも、その間に学んだ芸術に対する考え方方はその後の作家活動の基本となり、築いた友人関係は今でもとても大切なものとなっています。

大学卒業後は実家のある神奈川県に戻り、画家として制作・発表を続けてきました。活動の中心は東京でしたが、名古屋のギャラリーで定期的に発表していたこともあり、愛知との縁は続いていると思います。

そしてこの度、何も変わってないような、それでも少しは変わったような長久手に教員として戻ってきました。今まで作家として活動してきた経験を生かして学生を指導していくとともに、学生達の想像力やエネルギーから刺激を受けながら自分自身も成長して行きたいと思っています。あと、できればバンドもまたやりたいです。



村尾 里奈 むらお・りな 彫刻専攻講師

「彫刻は、超酷だ～」と言って、1年生の笑いの感度を確かめたのは4月のことでした。もう遠い昔のように感じられます。なぜ彫刻?と周りの人は思うかもしれませんのが、彫刻を「発見」してしまった人は、他の人が知らないその世界を面白くて仕方がないと思っているのです。私は彫刻に取り憑かれてしまった学生達と日々彫刻について考え、発見の現場にいることができる大変幸せに思っています。

私が育った才能教育という幼少期のための音楽教育法では、才能開花は、「親次第」「先生次第」「私次第」と考えられていました。けれども大学生に親はもう関係ありませんので、才能を活かすも殺すも「先生次第」と「本人次第」だと思っています。私はこれまで多くの師に恵まれてきましたが、私が彼らにとって師であることを忘れずに、日々宝刀を抜く思いでこれからも授業に臨んでいくつもりです。



高梨 光正 たかなし・みつまさ 芸術学専攻准教授

平成25年4月より、美術学部芸術学専攻の西洋美術史担当、イタリア美術史専門の教員として赴任しました。前職は国立西洋美術館学芸課で、14年にわたりて絵画・彫刻担当として作品調査業務と展覧会の仕事をしていました。ひたすらものを見、触り、解析し、それを社会教育という観点から社会に還元する仕事でした。美術史研究は、大学だけにいると作品そのものとの接点を失いかがちですが、ここでは学生から学ぶことが多くて困っています。美術史は、読書にも似て、作者が世を去ったあと、残された作品を通して、作者と直接対話をする技です。眼前的の作品から、それが過ごしてきた長い歴史とそれに関わった人々の想いを読み取り、後世に伝える仕事です。しかも良い作品に出会うとき、その瞬間に世界が広がります。その魅力が私をほら吹きにしました。



鈴木 芳雄 すずき・よしお デザイン専攻客員教授

誰もが気づいていることですが、現代ほどメディアの状況が目まぐるしく変化する時代はありません。私は東京をベースに、ときどき国内や海外に出張しながら、雑誌、ウェブ、新聞、テレビなどメディアの現場で仕事をしています。自分の経験や進行中の仕事を題材にしたり、あるいは好例プロジェクトを参考にしながら、今、メディアの最先端はどうなっているのか、理想的なコミュニケーションのためにどんな手段があるのか、そのツールとしての(広い意味での)デザインになにが求められているのかなどを一緒に考えていきたいと思います。



関口 敦仁 せきぐち・あつひと デザイン専攻教授

平成25年4月より美術学部教授として、デザイン・工芸科、デザイン専攻、環境デザイン研究領域に着任致しました。研究教育に熱意を持つ、教員の方々や学生達と緑豊かな愛知県立芸術大学において研究教育に集中できることを大変楽しみにしておりました。既に着任して1年近くが過ぎ、ますます本学の魅力を感じつつ仕事に従事しています。

情報デザインを研究の専門としながら、デザイン、美術全般の活動や研究、教育を進めております。デザイン専攻で担当している環境デザイン領域は、情報デザインとパラレルな関係でオーバーラップする部分が多く、その接点から様々な領域と接続していき、新たなデザイン表現を拡げていけるよう進めてまいりたいと考えております。



Marcella Reale マルチェッラ・レアーレ 声楽専攻客員教授

まずは、私にこのすばらしい大学の一員となる機会を下さいました、松村公嗣学長、戸山俊樹副学長、二神二朗声楽主任を始めとする多くの先生方に、心から感謝を申し上げたいと思います。これは私にとって非常に光栄なことです。また、何かとお手伝いを頂いている中巻寛子准教授にも感謝致します。先生方はどなたも気さくで、親切で、まるでひとつの大きな家族の中にいるような気分です。学生たちは才能に恵まれており、まじめで、学ぼうという意欲があります。彼らとともに学ぶことは、私にとっても喜びです。私は全力を尽くして彼らを助けて行きたいと思います。

すばらしい新音楽学部棟の完成に心からのお喜び申し上げます。Mille Grazie!



数森 寛子 かずもり・ひろこ 教養教育等准教授

教養教育のフランス語と外国文学の授業を担当させていただいております。研究の専門は19世紀フランスの文学と社会です。幼いころから絵を描くことが大好きだった私にとって、文学研究を志すことに決めた後も、芸術大学はつねに大きな憧れの存在でした。この大学でお仕事をさせていただけることになり、芸術に関わる仕事がしたいというもう一つの夢も、同時に実現することができました。先生方や事務の方々には、これまでにも様々な場面で温かいご支援をいただき、大変感謝いたしております。芸術を学ぶという共通の目標のもとに集まった学生のみなさんが、将来、国際的な舞台で活躍する上で必要となる語学力と広い視野を身につけることができるよう、精一杯努力していきたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

### 瀬戸内国際芸術祭 2013

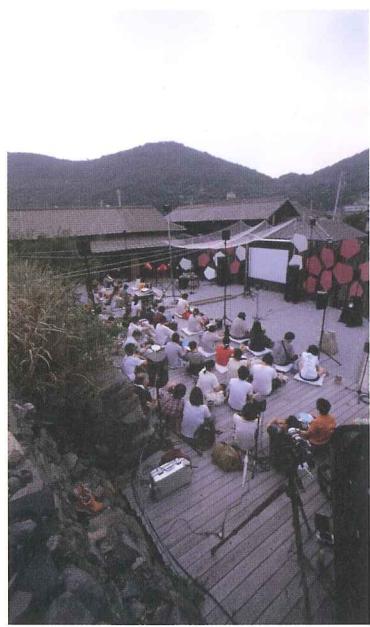
平成25年3月20日から11月4日のうちの108日間、瀬戸内海の12の島を会場として、2010年に続き2回目のトリエンナーレ瀬戸内国際芸術祭2013が開催されました。本学は、2010年より瀬戸内国際芸術祭に参加し、これまで女木島のMEGI HOUSEを拠点にして活動を展開しています。

今年度は、ピアノコンサート「喜びの島」、先端系音楽コンサート「MEGI」、女木島出身の卒業生による「お盆に小さなコンサート」、香川県吹奏楽連盟選抜メンバーによる「バリテュ-32重低音の魅力」、本学卒業生と香川の市民吹奏楽団、坂出高校の金管バンドによるコンサート「海のファンファーレ」、海外提携校6校と本学教員による初の合同展覧会「国際交流展」、本学の公募企画で選定された卒業生による展覧会など美術・音楽の両学部による展覧会やコンサート等のプログラムを実施しました。

8月30日から9月1日の3日にわたり開催された「サクソフォーン・アイランド」では、大阪音楽大学、エリザベト音楽大学、岡山大学、広島大学、香川大学の環瀬戸内にある大学と本学のサクソフォーンを専攻する学生・卒業生によるアンサンブルが、直島、豊島、小豆島等の作品の周りで演奏を行い、高松港で夏会期中に開催されたバングラデシュ・プロジェクトには創作楽器を制作する「JUNKWORK」を出展しました。

3月20日の開会式では、本学美術学部教員により制作された長さ6メートル幅2メートルの巨大創作楽器が登場して、香川県吹奏楽連盟選抜メンバー40名とともに、本学音楽学部教授が作曲したファンファーレを演奏しました。

会期中は、MEGI HOUSEに19,000人を超える来場者があり、本学のこのような活動が評価されて瀬戸内国際芸術祭実行委員会からMEGI HOUSEは継続作品に選定されました。



MEGI HOUSE

### 国際交流展

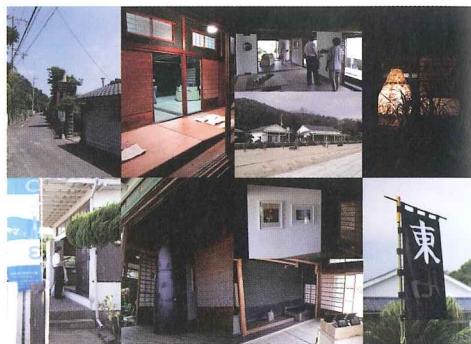
瀬戸内国際芸術祭2013愛知県立芸術大学国際交流展が平成25年7月20日から平成25年8月18日までの30日間にわたり、高松市女木島にあるMEGI HOUSEと龍潜荘において開催されました。

この展覧会は国際的な視野を持った高度な芸術教育を実践することにより「世界に通用する優れた人材を育成し、国際的な芸術文化の創造・発信拠点となることを目指す」という愛知県立芸術大学の理念により、英国のエジンバラ大学、ロンドン芸術大学、タイのチェンマイ大学、シラバコーン大学、アメリカのボストン美術館芸術大学の海外学術交流校とこれまで交流実績のある台湾の台南芸術大学と愛知県立芸術大学との初の合同展覧会となりました。

会期中は約5000人もの来場者に作品を鑑賞していただくとともに、ピアノコンサート、先端系音楽コンサート、女木島出身で本学卒業生による声楽コンサートの音楽イベントや16ミリフィルムとライブピアノのコラボレーション、留学生による自然農法に関するシンポジウムが同時開催され、教職員、学生と芸術祭参加者の交流が図られました。

なお、女木島において展示された作品の1部は、平成25年8月25日から9月8日の間に、本学の芸術資料館(長久手市)及び愛知県立芸術大学サテライトギャラリー(名古屋市)でも展示を行い、高松まで来られない学生、教職員や大学近隣の方にも広く公開されました。

この国際交流展をきっかけに、チェンマイ大学への留学生の派遣や台南芸術大学、ロンドン芸術大学との交流が計画され、愛知県立芸術大学の国際交流がますます活性化されることとなりました。



国際交流展

### あいちトリエンナーレ 2013

本年度はあいちトリエンナーレ2013が開催されましたが、本学としても主に「あいちトリエンナーレ2013大学連携プロジェクト」、「あいちトリエンナーレ2013並行企画事業」の関連イベントを実施いたしました。

#### ○あいちトリエンナーレ2013大学連携プロジェクト

愛知県内芸術系大学3大学(愛知県立芸術大学、名古屋芸術大学、名古屋造形大学)の連携による展覧会・講座を開催しました。

#### 〈展覧会:アートラボあいちにおいて3件実施〉

##### 「あいち卒展コレクティブ」(H25.5.1~H25.5.26)

昨年度をもって卒業、修了した学生を対象に、各大学の実行委員が5名を選出し、計15名の作品を展示しました。  
「キューピックミュージアム・プロジェクト+α」(H25.6.1~H25.6.15)

本年度より始動した「キューピックミュージアム」プロジェクトの紹介と「+α」として参加する寺内曜子の個展、及び若手作家のグループ展を開催しました。

##### 「Draw the World -世界を描く」(H25.8.9~H25.9.1)

主に絵画において、新鮮で優れたアプローチを行っている、中部圏にゆかりの深い20代の若きアーティスト6人の作品を展示了しました。

#### 〈座学:愛知芸術文化センターにて3講座を実施〉

##### 「そもそも公共の芸術コンペは何を目指していたのか?」(H25.9.6) 講師:高梨光正(本学美術学部准教授)

#### 〈体験講座:会場 愛知芸術文化センター〉

##### 「国宝を写す—鳥獸戯画の線描表現」(H25.8.22) 講師:阪野智啓(本学日本画専攻講師)

##### 「金属彫刻入門—スチレンボードによるマckett作り」(H25.8.27) 講師:村尾里奈(本学彫刻専攻講師)

#### ○あいちトリエンナーレ2013並行企画事業

##### 「グラハム・エラード&スティーブン・ジョン斯顿～EVERYTHING MADE BRONZE～」

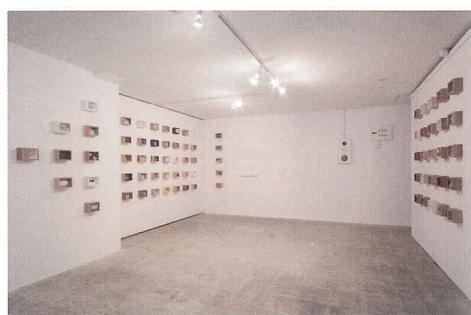
##### (H25.8.9~H25.8.19 サテライトギャラリー)

本学の招聘アーティストである、グラハム・エラード&スティーブン・ジョン斯顿による16mmフィルムによるインスタレーションの世界初展示をしました。

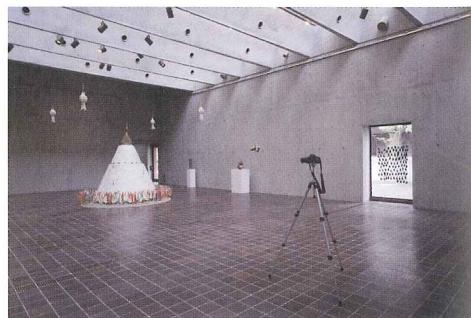
##### 「愛知県立芸術大学 国際交流展 2013-ないろ-」

##### (H25.8.25~H25.9.8 芸術資料館及びサテライトギャラリー)

本学及び本学の海外交流協定校等6校(エジンバラ芸術大学、ロンドン芸術大学 セントラル・セント・マーティンズ校、チェンマイ大学、シラバコーン大学、台南芸術大学、ボストン美術館芸術大学)による国際交流展を実施しました。

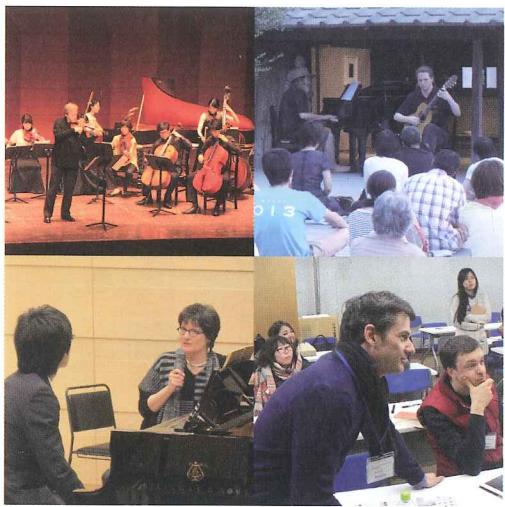


キューピックミュージアム・プロジェクト+α



愛知県立芸術大学 国際交流展 2013-ないろ-

## アーティスト・イン・レジデンス 2013



〈上左〉フェデリコ・アゴスティーニ教授の演奏会

〈上右〉マイケル・シェリー教授のコンサート

〈下左〉ニーナ・ティッヂマン教授の公開レッスン

〈下右〉ヘンク・コシュ氏(左)とクレメンス・メッツラー氏(右)

芸術創造センターの主催するアーティスト・イン・レジデンスは、本学の研究・教育を活性化することを目的に、国内外さまざまなキャリアの芸術家を招いて開催しています。

今年度は美術分野1件1名、音楽分野3件4名のアーティストを招聘して開催されました。

6月から7月にかけてアメリカ合衆国から元イ・ムジチ合奏団コンサートマスターであり、ヴァイオリン奏者のフェデリコ・アゴスティーニ教授(アメリカ合衆国・イーストマン音楽大学)を迎えて、「イタリア・ヴィルトゥオーゾの輝き」と題して公開レッスンなど一連のプログラムを実施しました。特に宗次ホールにおける本学教授陣との演奏会及び長久手市文化の家における本学学生との演奏会については、共演の教授陣及び学生と聴衆を魅了する演奏を聞かせました。

7月にはアメリカ合衆国からピアノ奏者であるマイケル・シェリー教授(アメリカ合衆国・バトラー大学)を迎え、「壊れた場所、それは光が差し込むところ」と題してレクチャーコンサートなど一連のプログラムを実施しました。プログラムの最後にはイタリアオペラのガラコンサートを開催し、ウッチャッコ教授は本学学外施設である香川県の女木島“MEGI HOUSE”にてコンサートを行い聴衆に感銘を与えました。

11月にはドイツからピアノ奏者であるニーナ・ティッヂマン教授(ケルン音楽大学)公開レッスンなど一連のプログラムを実施しました。特に名古屋大学豊田講堂において開催されましたレクチャーコンサートについては、本学と名古屋大学との連携事業であり、アーティスト・イン・レジデンスについて、新たな方向性が示された事業となりました。

12月にはドイツから照明デザイナーであるヘンク・コシュ氏とグラフィックデザイナーであるクレメンス・メッツラー氏、本学名誉教授である長谷高史氏を招聘し、ワークショップ等を開催しました。特に、通訳を介さない講義、英語による学生のプレゼンテーション等を実施は、本学学生が英語によるコミュニケーションの楽しさ・重要性を体験し、将来の留学や海外活動へのモチベーション向上に非常に寄与したと思われます。

## 愛知県立芸術大学の国際交流協定校について

平成24年1月、本学美術学部長がタイのチェンマイ市へ赴き、チェンマイ大学美術学部と学部間交流協定の締結を行い、11校目の国際交流協定校が増えました。現在両学の彫刻専攻を中心として交流を深めています。チェンマイ大学美術学部は、タイにおいて現代の彫刻表現の中心を担う重要な位置を占めており、チェンマイ・ソーシャル・インストレーションとして有名な文化イベントにも多くの関係者を輩出しています。今後も交換留学や共同展覧などを通じて相互の教員・学生の交流を進めて行く予定です。

また、平成25年7月には台湾国立台南芸術大学を新たな国際交流協定校として迎え、本学の協定校は9ヵ国12校となりました。1996年に創立した国立台南芸術大学は、有名芸術家と専門の学者である教授陣を揃え、国内外の大会で優秀な成績をおさめる学生が多く、台湾では最高ランクに属する芸術専門教育機関です。同学との協定調印式は、本学が『瀬戸内国際芸術祭』期間中に開催した『国際交流展NANAIRO』の会場でとり行いました。音楽と美術の両学部を持つ国立台南芸術大学との交流については、今後も様々な発展が期待されています。

協定は未締結ですが、ロンドン芸術大学セントラル・セント・マーティンズは、前述の『国際交流展NANAIRO』に6名の教員が展出、そのうち3名の教員が現地滞在制作を行っていただき、本学教職員や学生との交流を深めることができました。

ロンドン芸術大学セントラル・セント・マーティンズは、ロンドン芸術大学にあるカレッジの1つで、世界的に著名なアーティストを輩出している名門校であります。今後も本学からセントラル・セント・マーティンズへの訪問やセントラル・セント・マーティンズから教員を招へいしてのアーティスト・イン・レジデンスなども予定されており、積極的な交流を行っていきます。

## ハンブルク音楽大学での活動 „Japan trifft Deutschland“

2012年10月に開催された本学音楽学部定期演奏会で、ハンブルク音楽大学学長であり作曲家のE.ランプソン教授を招き、教授の作品演奏を行い(指揮:ランプソン教授)、私もそれに携わった。この共演がきっかけとなり、ハンブルク音大に来て何かやってみいかといふ、非常に嬉しいお話をいただいた。

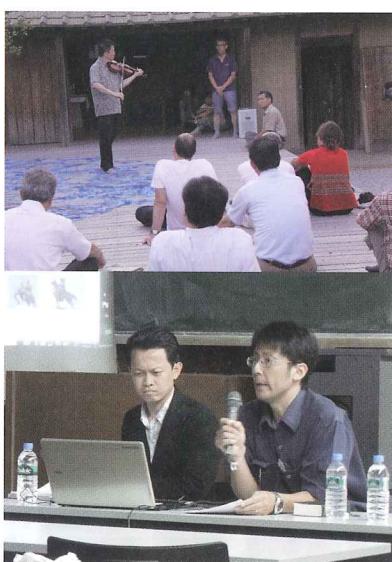
私が直ぐに思いついたのは、武満徹:四季Seasons(4人の打楽器奏者のための)である。この楽曲で4人の奏者は演奏中に気象や季節に関する文章やその断片を「Speak」する指示が書き込まれている。そこで、私を含めた4人全員が違う母国語でSpeakするアイデアを、ハンブルク音大のC.モンスケ教授に提案したところ、非常に興味を示してくれ、是非コンサートを実現しようということになった。Seasonsで奏者は新しい響きへの挑戦も要求される、そこでコンサートの準備として、打楽器の新しい響き作りについてレクチャーとアンサンブルのレッスンを数回行うことになった。

レクチャーとレッスンでは学生達は常に積極的に反応してくれて、質問や意見もさまざま、彼らは時に私が考えも付かない独創的なアイデア出してきて、非常に熱の入ったレッスンを展開できた。

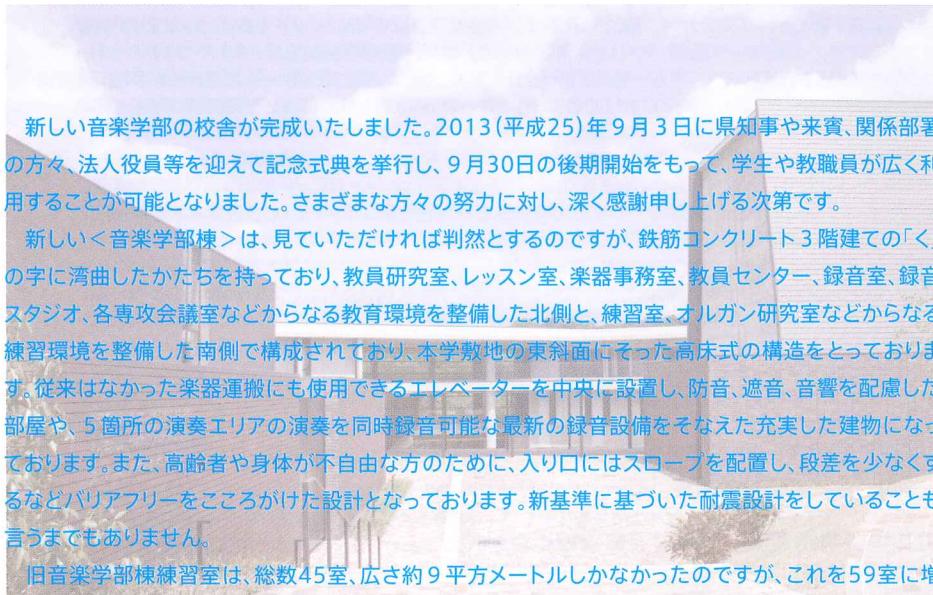
コンサートでの演奏後、多くのお客様から質問や感想を載いた「あれは何を喋っていたのか?言葉が響きと絡まって美しかった」など。コンサートでは他にアンサンブル数曲、ソロ曲として一柳慧:「ティンパニのためのリズムグラデーション」、武満:「ムナーリ・バイ・ムナーリ」を演奏したが、一柳作品は国際コンクールで定番となっているレパートリーであり、今回ティンパニソロをドイツで披露し好評を得たことは非常に大きな収穫であった。

ハンブルク音楽大学の目の前には巨大な公園と湖があり、バスに乗れば10分で市の中心部に到着できるとても魅力的な立地条件の中、学生達がおおらかに音楽活動をしていることがとても印象的だった。今回ランプソン学長、モンスケ教授そして学生達がほんとうに私を歓迎してくれ、プロジェクトの成功のためさまざま尽力してくれたことに、感謝している。

(音楽学部器楽専攻管打楽器コース准教授 深町 浩司)

〈上〉台南大学学長の演奏  
〈下〉チェンマイ大学来訪〈上〉レクチャーとレッスン  
〈下〉コンサート終了後の記念撮影

## 音楽学部 新校舎の完成について



新しい音楽学部の校舎が完成いたしました。2013(平成25)年9月3日に県知事や来賓、関係部署の方々、法人役員等を迎えて記念式典を挙行し、9月30日の後期開始をもって、学生や教職員が広く利用することが可能となりました。さまざまな方々の努力に対し、深く感謝申し上げる次第です。

新しい「音楽学部棟」は、見ていただければ判然とするのですが、鉄筋コンクリート3階建ての「く」の字に湾曲したかたちを持っており、教員研究室、レッスン室、楽器事務室、教員センター、録音室、録音スタジオ、各専攻会議室などからなる教育環境を整備した北側と、練習室、オルガン研究室などからなる練習環境を整備した南側で構成されており、本学敷地の東斜面にそった高床式の構造をとっています。従来はなかった楽器運搬にも使用できるエレベーターを中央に設置し、防音、遮音、音響を配慮した部屋や、5箇所の演奏エリアの演奏を同時録音可能な最新の録音設備をそなえた充実した建物になっております。また、高齢者や身体が不自由な方のために、入り口にはスロープを配置し、段差を少なくするなどバリアフリーをこころがけた設計となっております。新基準に基づいた耐震設計をしていることも言うまでもありません。

旧音楽学部棟練習室は、総数45室、広さ約9平方メートルしかなかったのですが、これを59室に増やし、約8~16平方メートルのさまざまなタイプの部屋を設置しましたので、使用目的に応じて、より多くの学生たちの利用が可能となりました。学生たちがくつろげるスペースもあり、そこにはコピー機や飲み物の自動販売機も設置し、無線LANによるネットワーク環境も整備いたしました。新校舎は、斜面に建っているために、基本的には2階部分が入り口になっており、東側の森を望めば、遠くに愛・地球博記念公園の観覧車が見え、木々のあいだをリニモが通り過ぎてゆく姿を見ることができます。

また、中庭をはさんで、その前面に「演奏棟」と「室内楽ホール」があるのですが、「演奏棟」には、おもにオペラや合唱の授業に用いられるオペラ・合唱室と2つの大演奏室があり、「室内楽ホール」には、客席約250席のホールと小演奏室、ピアノ庫を備えております。

新校舎は、室内楽や弦楽合奏等の授業、実技試験、試演会、学内演奏会、修士演奏会、ドクトラル・コンサートなど、さまざまに有効利用してゆく所存であります。かつ、新校舎の完成に際しては、日頃から本学の音楽活動に深い理解を賜っていた法人イエローエンジェル様より、6千万円を越える新楽器の寄贈をいただきました。じつに有り難いこと、感謝にたえない次第です。

音楽学部の施設は、しかしながら、すべて新しくなった訳ではありません。奏楽堂や管打楽器コース施設などはもとのままであり、その更新、改修についても継続的に考慮してゆく必要があります。新校舎と奏楽堂をつなぐためのブリッジを設けましたが、新旧施設の不均衡や相互の連絡、練習室使用基準、使い勝手の問題などは、今後とも検討していくべき課題であると思われます。まだ道半ばなのです。これで施設整備が終わった訳ではありません。

長久手に位置する本学の敷地は、実に湿気の多い土地であり、除湿や湿気対策を心がけたつもりですが、梅雨どきにはどうなるのか、実際にその時節を迎えてみなければ判らないことが多いのです。各室に空調設備を設け、従来は人っ子ひとりいない状態でも冷暖房がついているという無駄な費用が軽減できるはずなのですが、部屋数も増え、従来はなかった施設もできた今は、実際にどれだけの光熱費、維持費用が発生するのか、これまた、しっかりと把握、確認しながら、さらなる充実を図ってゆかなければなりません。校舎の建設とは、建てたらそれで完了というものではなく、その不断の維持、管理、改善が必要であることは言うまでもないでしょう。

そして、音楽学部関連施設はかなり更新されたのですが、美術学部施設、講義棟、管理棟、芸術資料館、附属図書館、大学会館、学生食堂等は、いまだ手つかずの状態であり、すぐれた教育理念にもとづいた、全学的にバランスのとれた、美しく機能的なキャンパスを構想、作り上げていかねばなりません。

施設の使用者は学生、教職員であり、もっとも適切かつ快適な利用のためには何をなすべきか、また効率的な管理運営をしてゆく上で何が必要なのかを考え、実行してゆきたいと思っております。

3年後の2016(平成28)年に、本学は創立50周年を迎えるのですが、卒業生や県民、地域社会や世界のさまざまな人々に対し、教育研究の成果を認めてもらうべく、新校舎がそれにふさわしいものと評価されることを心より願っております。



二瓶 浩明  
にへい ひろあき  
音楽学部 学部長



新校舎 完成記念式典の様子



〈音楽学部棟〉録音室、録音スタジオ

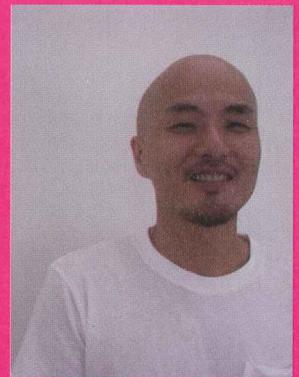


〈演奏棟〉オペラ・合唱室



〈音楽学部棟〉1階ロビー

## 森北 伸 もりきた・しん 准教授

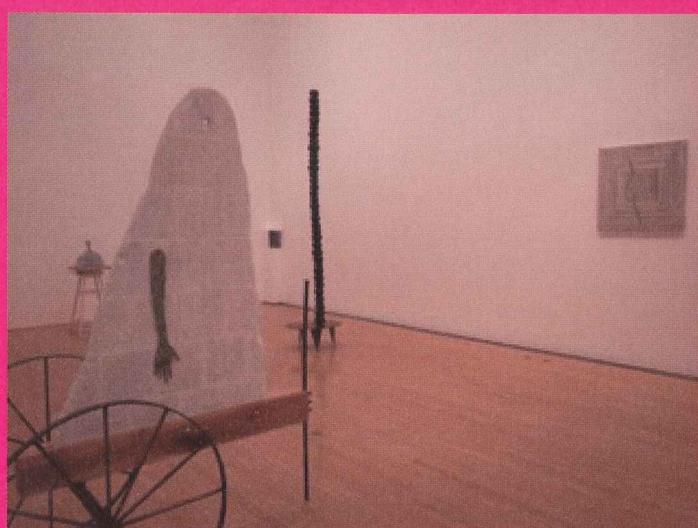


## 僕と美術とビートルズ

美術に興味を持ち始めたのはモネの画集を小学生の頃に見たのがきっかけだった。モネの代表作である「睡蓮」シリーズはもちろんのこと、「積みわら」シリーズが特に好きになり、当時では言葉にできなかった色彩の美しさに漠然と感動したことを覚えている。また画集の最後の方に載っていた10代後半頃に描いたカリカチュア(戯画)も同じくらい好きだった。モネのカリカチュア(戯画)は当時モネの住んでいた町の人々が滑稽に表現されていて、ある意味とても人間らしい像で描かれている。そして僕は親にせがんでB3のスケッチブックと鉛筆を買ってもらい、まずはそのカリカチュア(戯画)を模写することを始めた。気ままな小学生の遊びと言ったらそれまでだが、自分にとって美術を志す初めの一歩になったような気がする。

美術という存在は僕にとって時間の流れの中で様々な意味に変容していったし変容していくだろう。自由であり、またこの上なく苦痛でもあり、とても遠くても身近な存在である。いま好きな作家を問われれば近代の作家とモダニズムの建築家(家具も含め)が多い。なぜそれらに惹かれるのか意味を考えるが、答えはなかなか出でこない。意味は言葉であり、答えを出すとなぜだか陳腐に感じてしまう。

最近、ビートルズをヘビーローテーションで聞いていて、どんな曲も好きだが最近のお気に入りはGet BackとNowhere Man。なぜだかビートルズの曲のタイトルにはloveの単語がよく入っている……



「土曜の夜と日曜日の使者」(2011年)



制作風景

## 音楽

声 楽	杉浦 孝治 奥村 育子	学部3年 博前2年	第14回 大阪国際音楽コンクール 声楽部門 [Age-U] 歌曲コース 第2位(1位なし、最上位) 第67回 全日本学生音楽コンクール全国大会 声楽部門 大学の部 第2位 第67回 全日本学生音楽コンクール名古屋大会 声楽部門 大学の部 第1位 奏楽堂 日本歌曲コンクール 入選 番中良輔賞 新国立劇場オペラ研修所第17期生合格
ピアノ	安田 裕美 水野 秀樹 竹多 優子 酒井 志野 堀川 しおり 小鷹 礼子 松江 咲恵子 吉田 茜	2013修了 2012修了 2006卒業 学部1年 学部1年 学部2年 学部2年 学部2年	第82回 日本音楽コンクール声楽部門(オペラ・アリア) 第1位 岩谷賞、E.ナカミチ賞を同時受賞 第14回 大阪国際音楽コンクール ピアノ部門 [Age-U] Espoir Prize 第7回 ベーテンピアノコンクール バロックコース 大学・一般部門 第1位 第14回 大阪国際音楽コンクール ピアノ部門 [Age-U] Espoir Prize 第23回 日本クラシック音楽コンクール ピアノ部門 東京会場 ピアノ部門 大学女子の部 全国大会 第3位 第23回 日本クラシック音楽コンクール ピアノ部門 東京会場 ピアノ部門 大学女子の部 全国大会 第3位 第23回 日本クラシック音楽コンクール ピアノ部門 大阪会場 ピアノ部門 大学女子の部 全国大会 第4位 第14回 大阪国際音楽コンクール ピアノ部門 [Age-U] Espoir Prize 第15回 万里の長城杯国際音楽コンクール 優秀伴奏者賞 第23回 日本クラシック音楽コンクール ピアノ部門 第5位 岐阜国際音楽祭コンクール 専門コース ピアノ部門 一般 入選 2013国際ピアノフェスティバルin知多 第20回記念大会 F部門(大学生・一般) 銅賞
弦楽器	菅井 麻友子 山地 梨保 小林 索太 岩根 衣季 小川 亜希子	2013修了 学部4年 学部4年 博前1年 研究生	第23回 日本クラシック音楽コンクール 一般部門 第4位 第14回 大阪国際音楽コンクール 弦楽器部門 [ハープ] Avenir Prize 桑名西ロータリークラブ 第26回 音楽家奨励賞 新進音楽家奨励賞 蓼科音楽コンクールin東京 第2位(1位なし) 第15回 万里の長城杯国際音楽コンクール 一般の部A 第2位 第5回 岐阜国際音楽祭コンクール 弦楽器部門 大学・一般の部 1位 第14回 大阪国際音楽コンクール 弦楽器部門 [ハープ] 第2位
管打楽器	高田 知子 坂部 彩 橋本 琴世 葛島 涼子 平光 優里	2013修了 学部4年 学部2年 博前2年 学部3年	第25回 日本ハープコンクール プロフェッショナル部門 第4位 第14回 大阪国際音楽コンクール デュオ部門 第3位 第10回 クラリネットアンサンブルコンクール 一般A部門 第1位 ザ・クラリネット賞 第10回 クラリネットアンサンブルコンクール 一般A部門 第1位 ザ・クラリネット賞 第18回 JILA音楽コンクール マリンバ部門 入選 第11回 イタリア国際打楽器コンクール マリンバC部門 第2位

## 美術

日本画	白石 綾奈 安田 渉 鈴木 靖代 河本 真里	学部3年 学部3年 学部4年 学部4年	安城市公募展 入選 平成25年 熊谷守一大賞展 入選 第98回 再興院展 入選 院展 入選 第8回 CBC輝け！二十歳の記憶展 中日新聞社賞 第8回 CBC輝け！二十歳の記憶展 審査員賞 第68回 春の院展 入選 第98回 再興院展／第64回 春の院展 入選 第98回 再興院展／第64回 春の院展 入選 第1回 愛知県三芸大学選抜 H/ASCA展 準優秀賞 第97-98回 再興院展 入選 第68回 春の院展 入選
油 画	菊池 円 平田 望 宇城 翔子 徐 凡軒 森下 麻子 南里 康太 山岡 佳澄 浅野 純理 横山 奈穂子 吉田 悠希 横野 明日香 三井 淑香	博前1年 博前1年 博前2年 博後1年 博後2年 2011修了 2010修了 博前2年 博前2年 博前2年 博前1年 2008卒業	損保ジャパン美術大賞 2014FACE大賞 グランプリ 第98回 再興院展 入選 第98回 再興院展 入選 第67-68回 春の院展 入選 アートアワードトーキョー丸の内2013 出典アーティスト 第98回 再興院展／第64回 春の院展 入選 第68回 春の院展 入選 第98回 再興院展 入選 第38回 大学版画展 町田市立国際版画美術館収蔵賞 第8回 CBC輝け！二十歳の記憶展 名古屋市教育委員会賞 第38回 大学版画展 町田市立国際版画美術館収蔵賞 アートアワードトーキョー丸の内2013 出典アーティスト 第10回 熊谷守一大賞展 大賞 FACE2014 損保ジャパン美術展 優秀賞
彫 刻	藤永 覚耶 小栗 沙弥子 村上 仁美	2008修了 2004修了 博前1年	平成25年度 滋賀県次世代文化賞受賞 公募 公益財団法人ホーラ美術振興財団平成25年度若手芸術家の在外研修助成を受け、シラバーン大学美術学部ナコンバトム校招聘研究員として1年間在外研修中。 第1回 愛知県三芸大学選抜 H/ASCA展 最優秀賞 AAC(アート・ミーツ・アーキテクチャー・コンペティション) 最優秀賞
デ ザ イ ン	飯田 夏代 汪 吳 鈴木 一太郎	博前2年 博前2年 博前2年	AAC(アート・ミーツ・アーキテクチャー・コンペティション) 入選 第7回 飾り瓦コンクール 中部経済新聞社賞 Tokyo Midtown Award 2013 アートコンペ部門 グランプリ サイバーエージェント 学生版モックプランコンテスト 金賞 シャルジャビエンナーレ11 同ビエンナーレ賞受賞 Model to Monument(ニューヨーク市内パブリックアート公募展) 入選 革コン第3回 東京レザーフェアデザインコンテスト 最優秀賞 「FontStar／字体之星」中国ゴシック書体フォントデザインコンテスト 見出しゴシック書体部門 優秀賞
陶 磁	占部 史人 久保田 琳奈 董 芸 小竹 菜穂 木村 達人	2013修了 2007修了 博前2年 博前2年 博前2年	ロッタルダム国際映画祭(オランダ) 入選 第4回 実験映画フォーラム(シンガポール) 入選 リマインデペンドント映画祭(ベルギー) 入選 エディンバラ国際映画祭(イギリス) 入選 イフランヴァ国際ドキュメンタリー映画祭(チェコ) 上映 「未来歴史学研究室へようこそ!」国際公募展 佐賀大学コンテンツデザインコンテスト 優秀賞
	デザイン2年生(朝岡遊始め11名)		第44回 東海伝統工芸展 入選 第44回 東海伝統工芸展 入選 第8回 バラミタ陶芸大賞展 ノミネート